

働き手向けアンケート調査結果

平成 2 9 年 1 1 月

産業人材政策室

調査①：仕事・会社に対する考え方アンケート

調査方法	インターネット調査
調査実施機関	インターネット調査会社
調査時期	平成29年10月
対象者	【回収数】 67,425名 、【条件】 民間企業にてフルタイムで勤務する、 30歳～59歳 の働き手

「仕事・会社に対する考え方」に関する分析（前提）

30個の選択肢に対する回答を分析（因子分析）し、背後にある6つの価値観を抽出。

①安定重視

- 仕事と生活のバランスがとれることが重要だ
- 同じ仕事に安定して取り組みたい
- 大きく稼げるよりも収入が安定していることが重要だ
- 将来にわたって解雇や倒産などの不安がないことが重要だ
- 今の家から通勤しやすい職場で働けることが重要だ
- 毎日楽しく仕事がしたい
- 手に職をもって安定して働きたい
- 仕事内容よりも福利厚生が整っている会社で働きたい
- 残業は絶対にしたくない

③企業名重視

- 知名度が高い会社で働きたい
- 歴史の長い会社で働きたい
- 友人・知人に自慢できる会社で働きたい
- 出世・昇進がなによりも重要だ
- CSRの取り組みが充実している会社で働きたい

⑤社会貢献重視

- 幅広い知識ではなく専門知識や能力を向上させたい
- なによりも社会や地域に貢献するために働きたい

②人間関係重視

- 同僚や関係者との関係がなによりも重要だ
- 会社の風土・職場の雰囲気になによりも重要だ
- 優れた社員・従業員と一緒に高め合って働きたい
- アットホームな職場で働きたい
- 性別に関わらず働きやすい職場で働きたい
- 社の理念・経営戦略に賛同できるところで働きたい
- 教育体制の充実している職場で働きたい
- プライベートでも職場の人と仲良くありたい

④報酬・評価重視

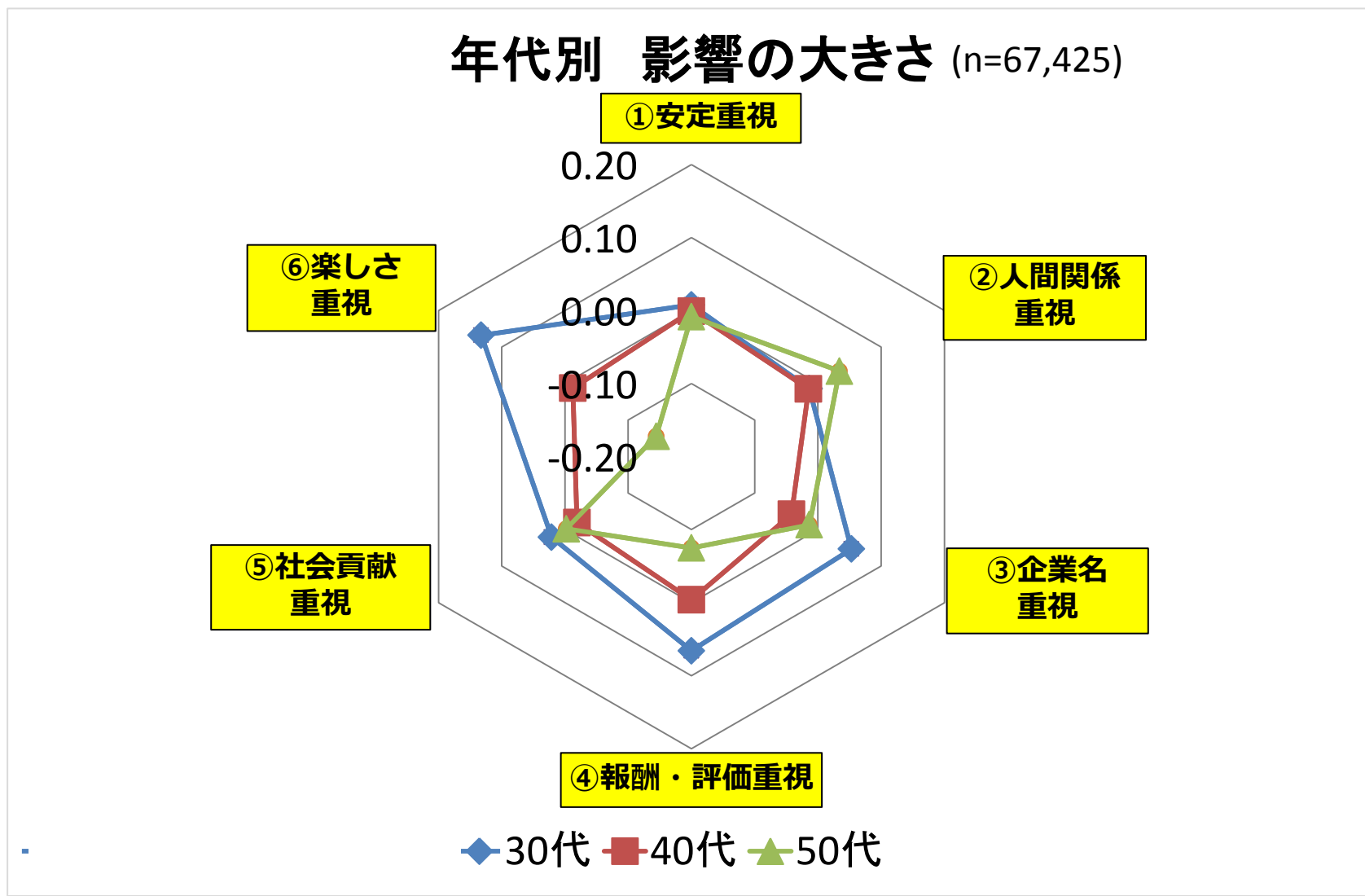
- 生涯年収をとにかく高めたい
- 稼げる時に大きく稼ぎたい
- 自分の実績は常にきちんと評価される職場で働きたい

⑥楽しさ重視

- 趣味の一環で仕事がしたい
- 華やかな仕事がしたい
- 次々に新しい仕事をしたい

各年代ごとの「仕事・会社に対する考え方」

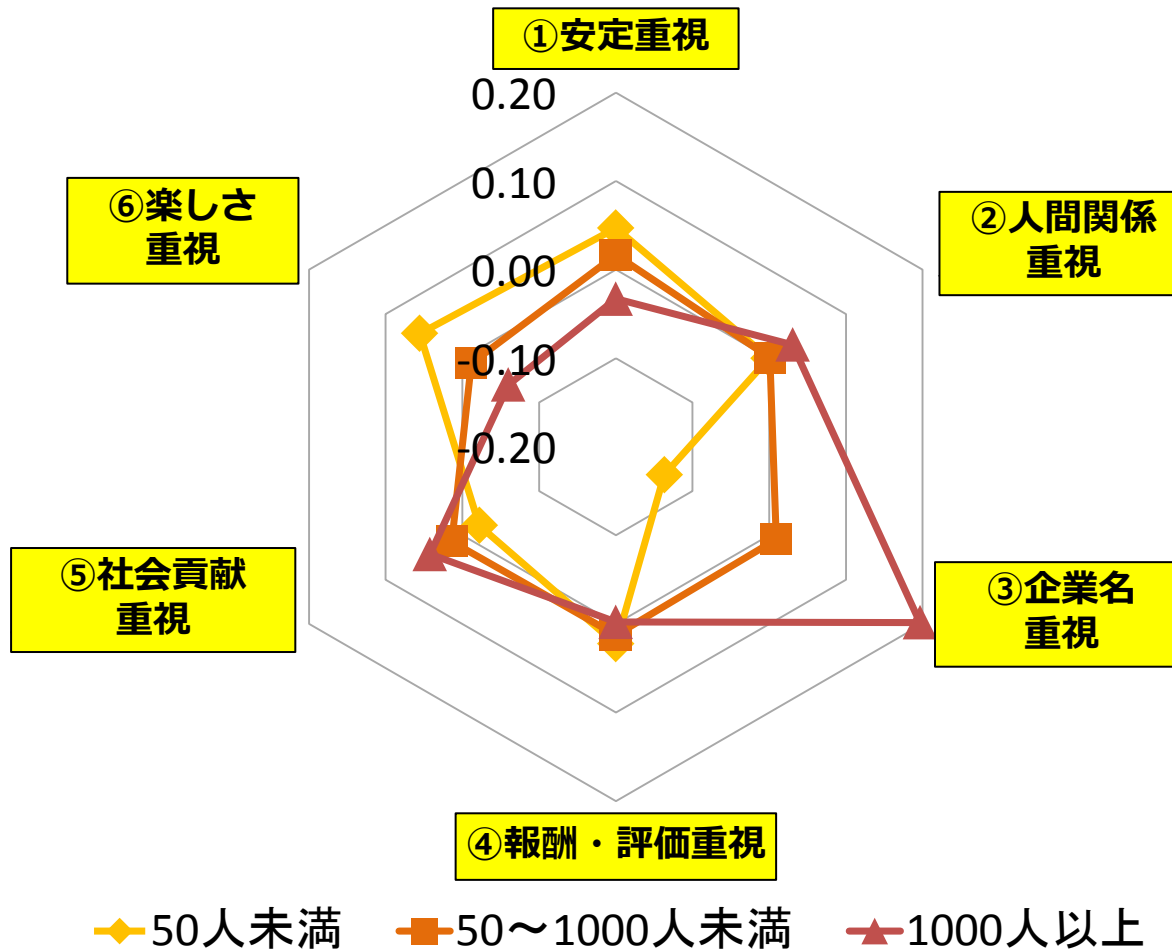
- 30代は「楽しさ」「企業名」「報酬・評価」重視の傾向。
- 50代は「人間関係」を重視する一方、「楽しさ」「報酬・評価」は極端に低い。



企業規模ごとの「仕事・会社に対する考え方」

- 規模が大きい方が「人間関係」「企業名」「社会貢献」を重視。
- 1000人未満は「楽しさ」を重視する一方、1,000人以上は「楽しさ」が極端に低い。

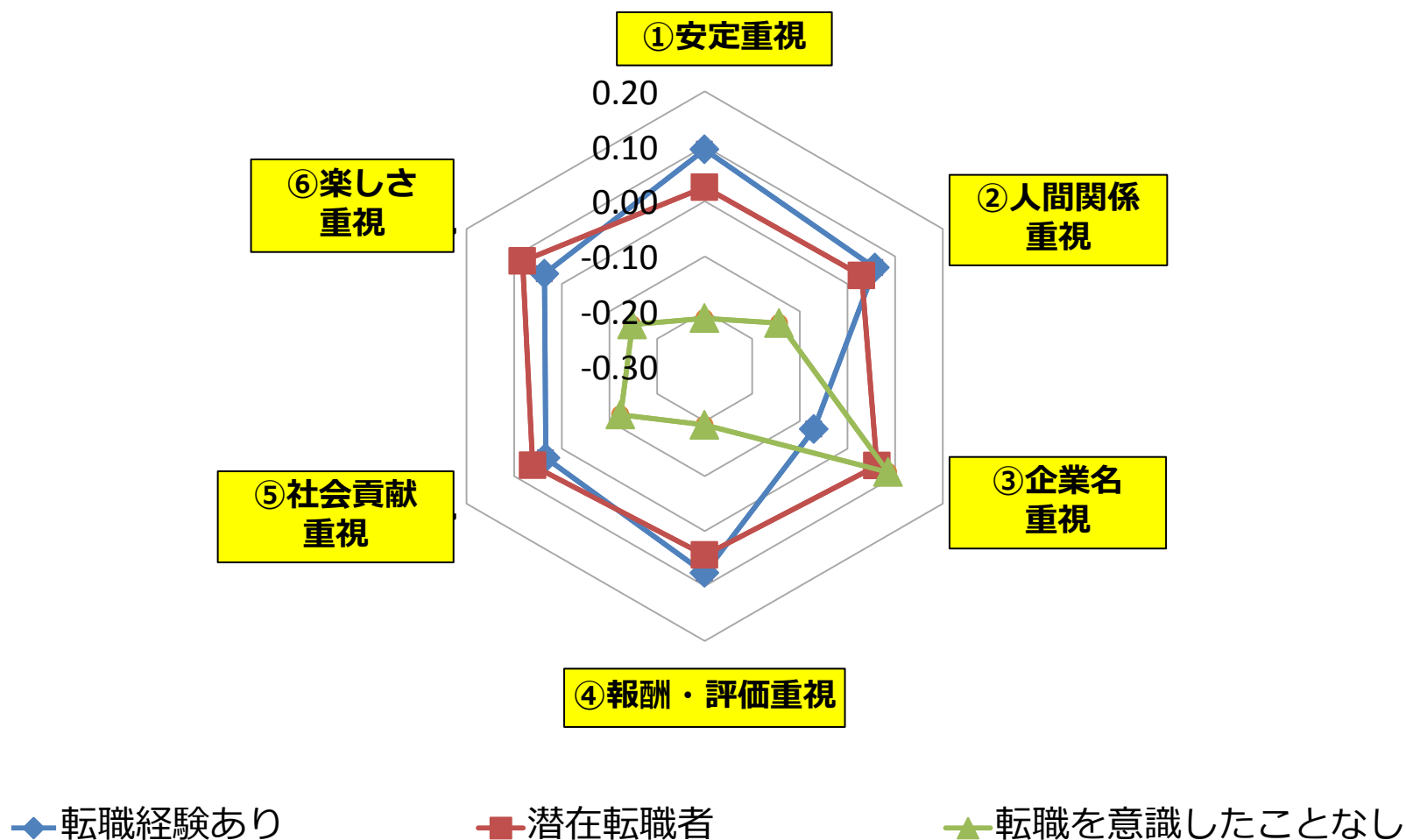
企業規模別 影響の大きさ (n=67,425)



転職経験ごとの「仕事・会社に対する考え方」

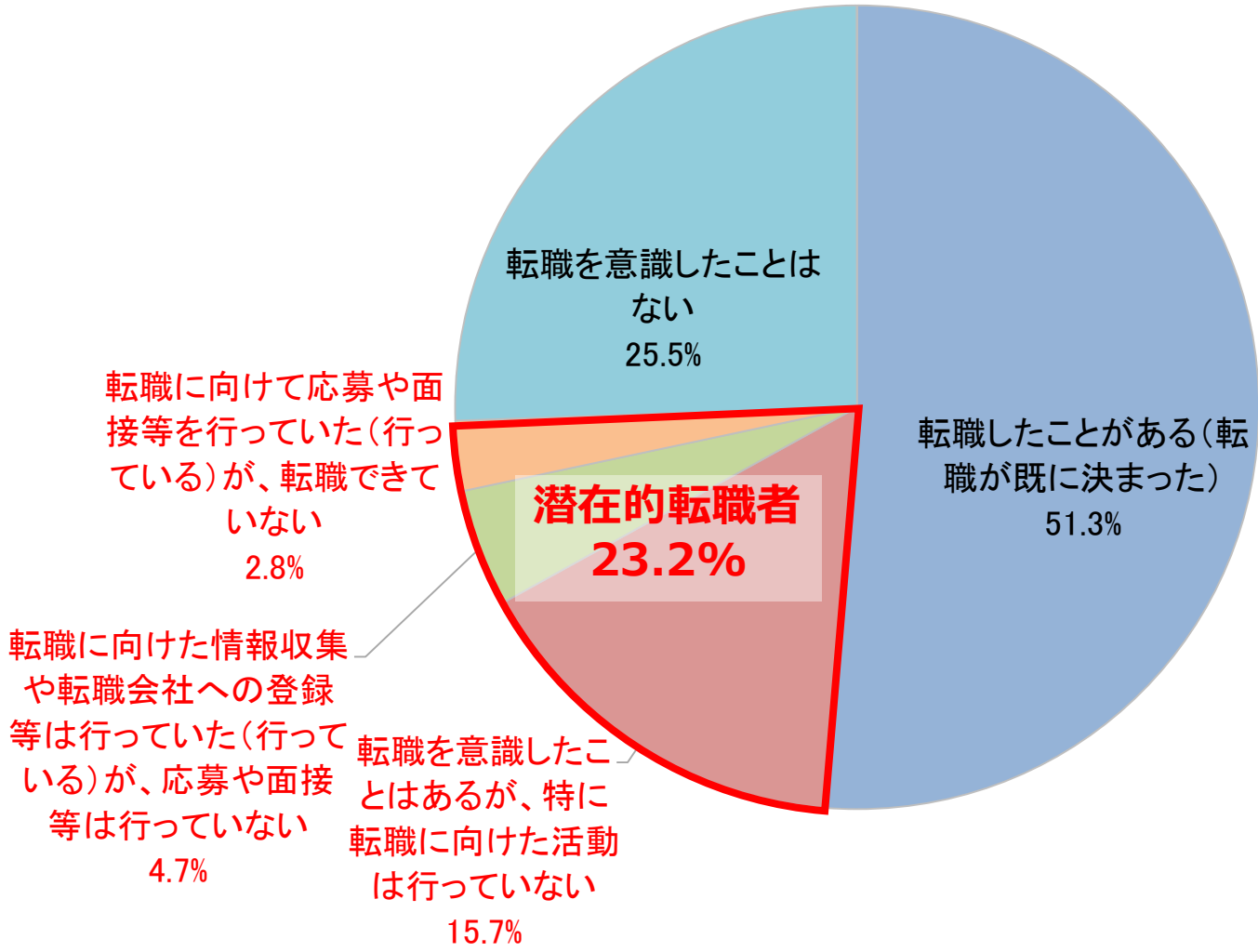
- 転職経験者や、転職を検討しているが実行に移していない者（潜在転職者）に比べ、転職を意識したことのない働き手は「企業名」以外の全ての数字が低い。

転職経験別 影響の大きさ (n=67,425)



調査②：潜在転職者（転職を意識したことがあるが、実際に転職できていない層）向けアンケート

問. あなたの転職意向の有無・転職活動の状況等について教えてください。

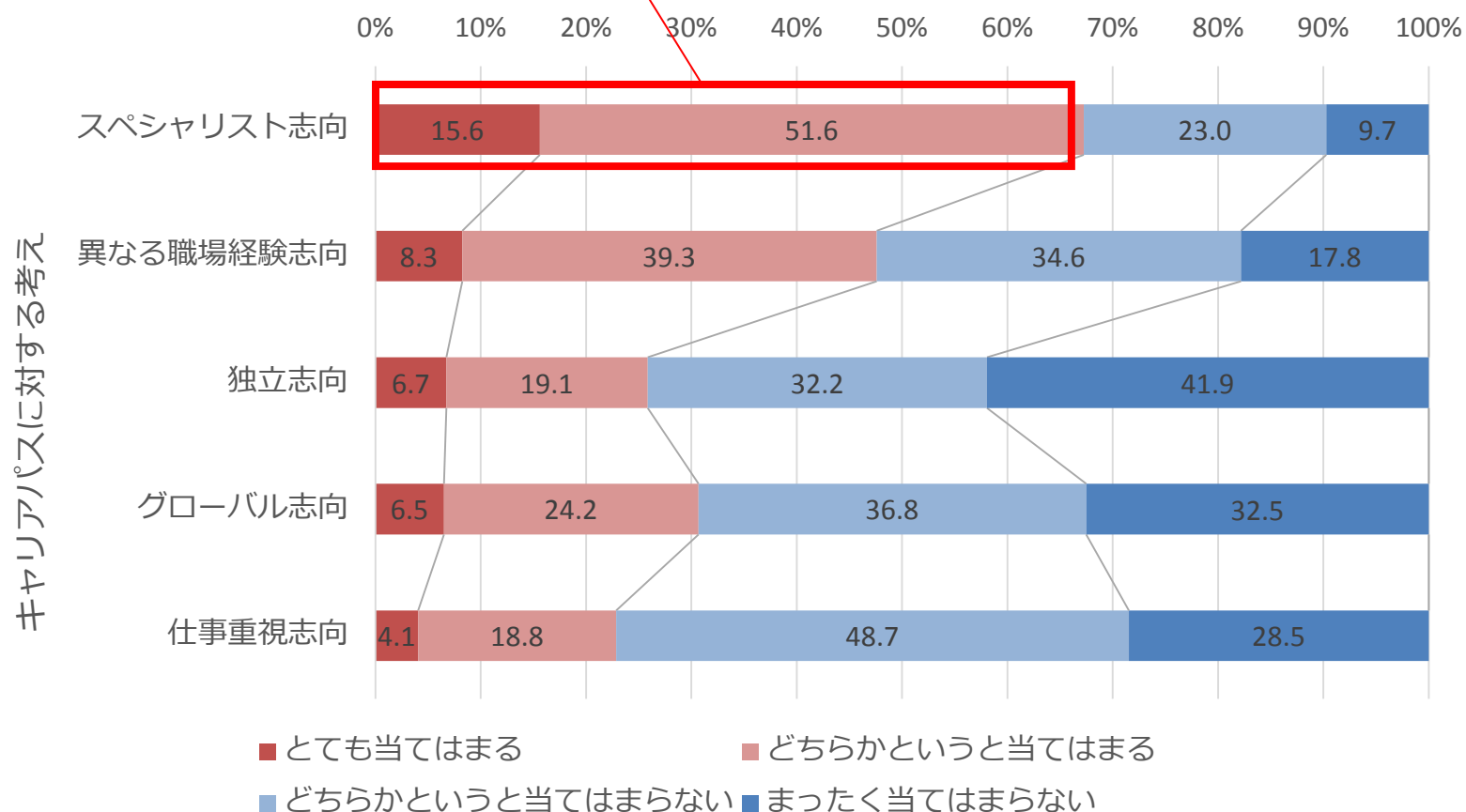


調査方法	インターネット調査
調査実施機関	インターネット調査会社
調査時期	平成29年10月
対象者	<p>【条件】</p> <ul style="list-style-type: none"> 30歳～59歳の働き手 「転職に関心があるが未経験(※)」の層 <p>【回収数】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1,307名

3分の2の働き手が、「特定分野のスペシャリスト」を志向。

問. あなたのキャリアパスに対する考えについて教えてください。
(当てはまるものそれぞれ1つずつ) (n=1307)

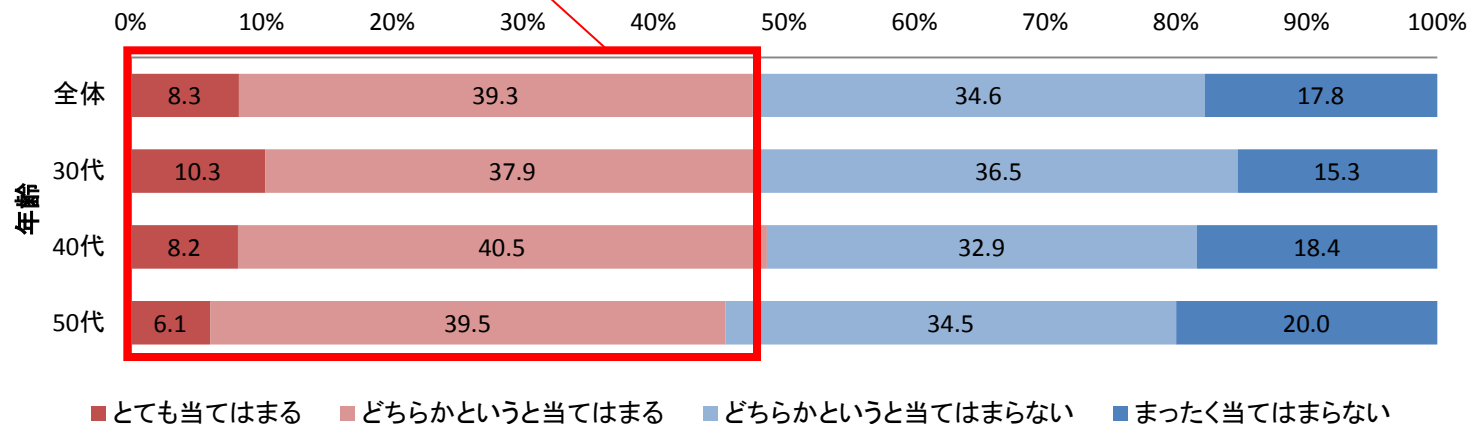
スペシャリスト志向：67.2%



どの年代も、「兼業・副業志向」は高く、「独立志向」は低い。

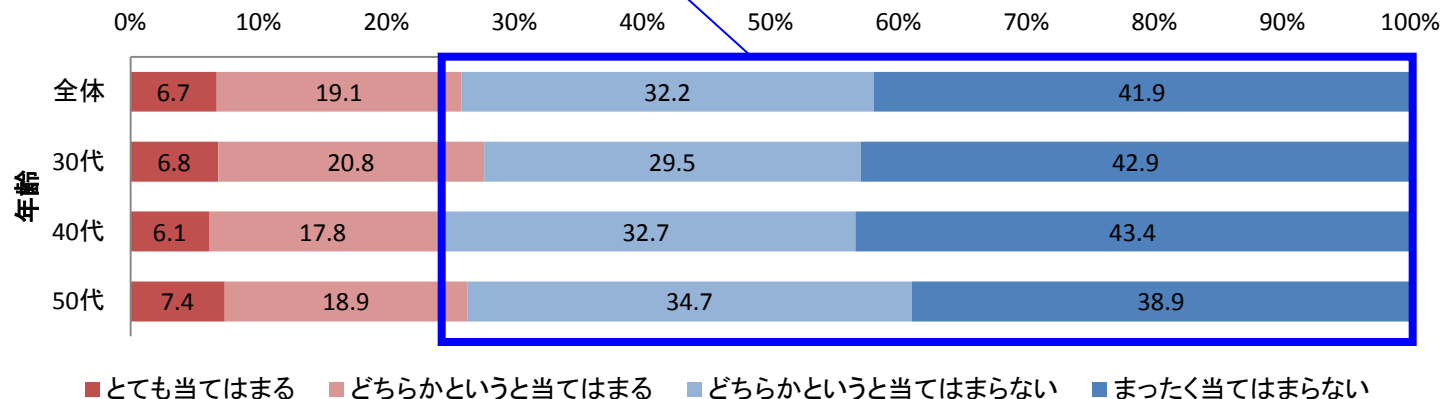
問. 兼業・副業などの異なる職場経験をしたい

各世代とも概ね半数が前向き



問. いずれ独立したい (会社をつくる、フリーランスになるなど)

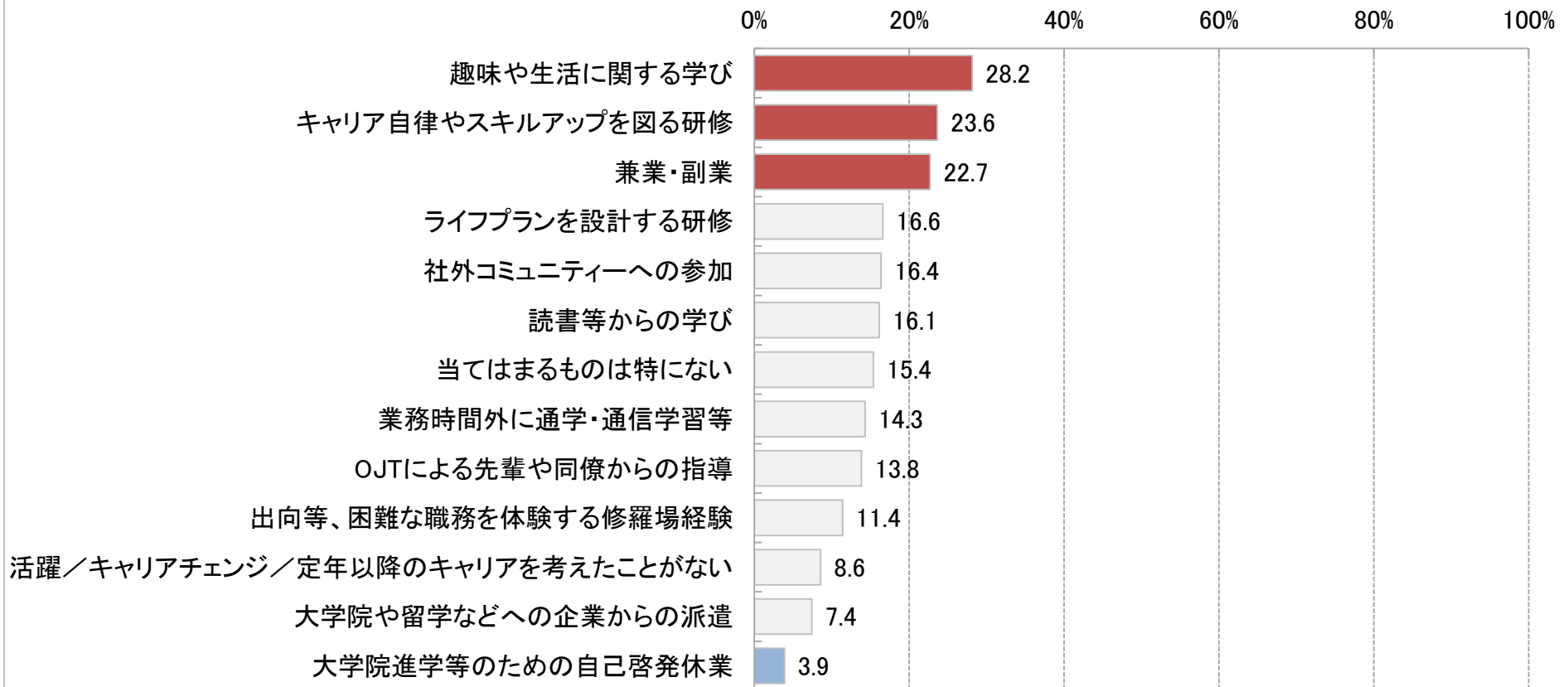
各世代とも概ね4分の3が後ろ向き



将来取り組みたいことは、「趣味や生活に関する学び」。

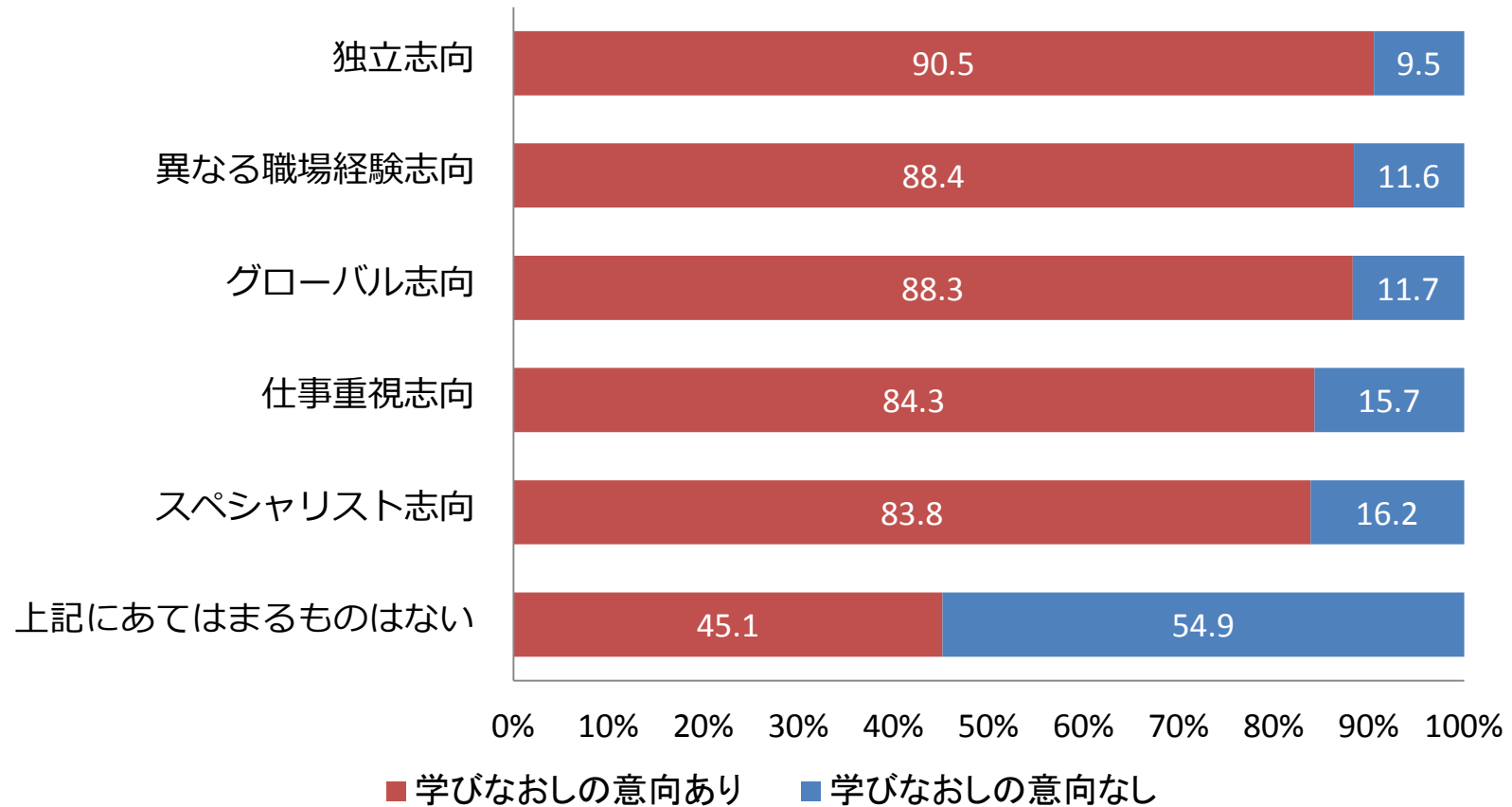
- 人生100年時代を見据えて将来取り組みたいことは、「趣味や生活に関する学び」「キャリア自律やスキルアップを図る研修」「兼業・副業」の順。
- 一方、「大学院進学等のための自己啓発休業」は最下位。

問. 人生100年時代とも言われる中、今後の「社内での活躍」を見据えて、将来取り組みたいことをお選びください。（それぞれいくつでも (n=1307)



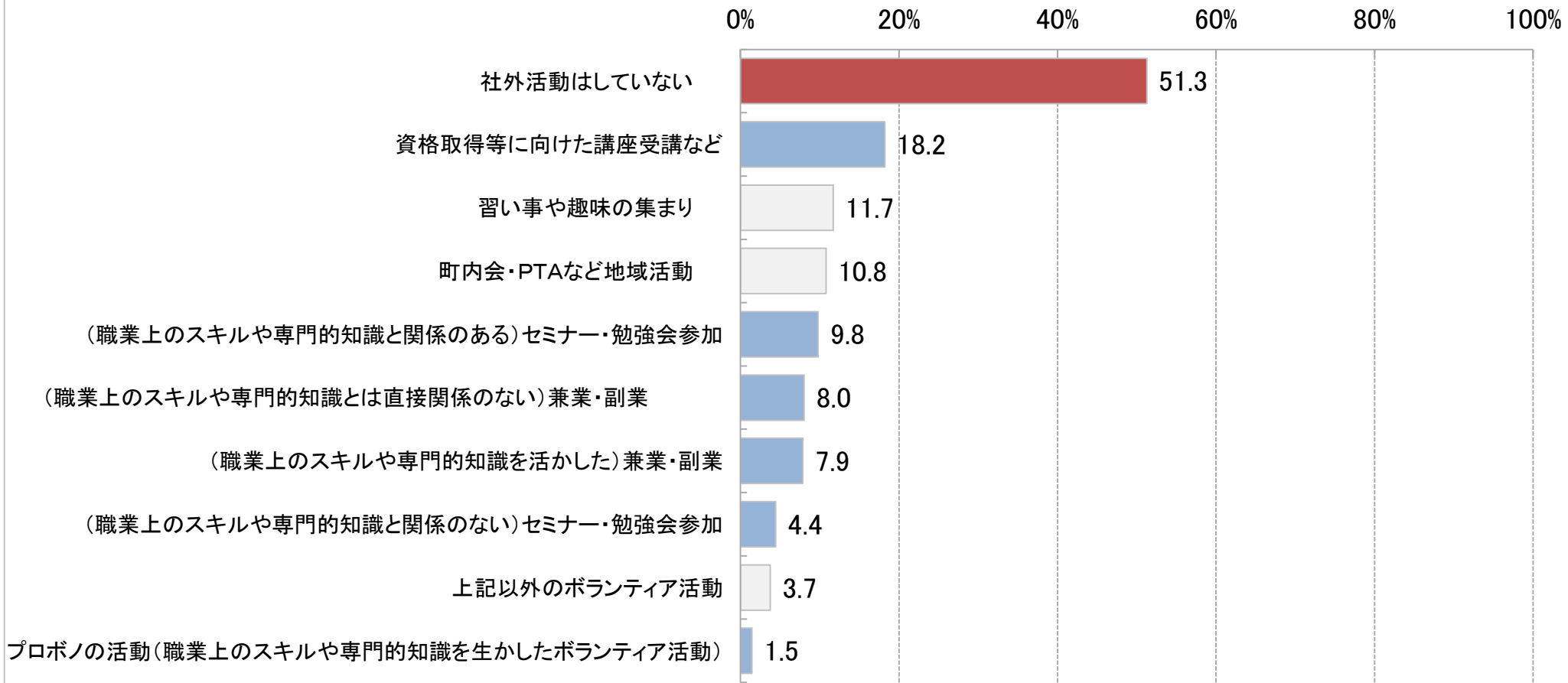
「仕事に関して何らかの志向を持っている」働き手の方が、学び直しに積極的。

問. 人生100年時代とも言われる中、今後の「社内での活躍」を見据えて、将来取り組みたいことをお選びください。（それぞれいくつでも）（n = 1307）



半数以上の働き手は、講座受講や勉強会などの「社外活動」を何もしていない。

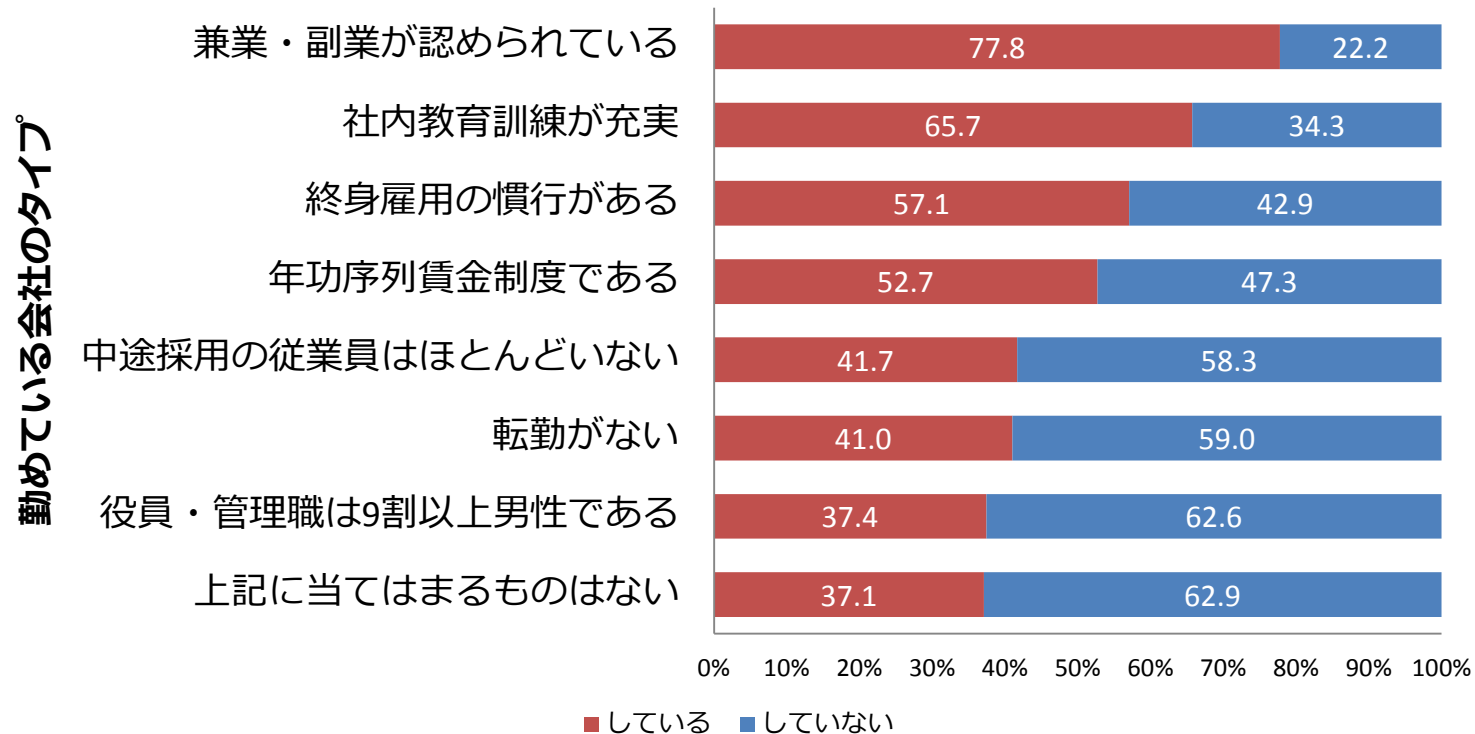
問. あなたは現在、次の社外活動をしていますか。
当てはまるもの全てお答えください。(いくつでも) (n=1307)



ダイバーシティが高い、兼業・副業が認められている、社内教育訓練が充実しているほど、「働き手が社外活動を行っている」。

- 一方、転勤が無い企業、中途採用の従業員が少ない企業など、人材の流動性が乏しい企業に勤めている働き手は、社外活動に積極的ではない。

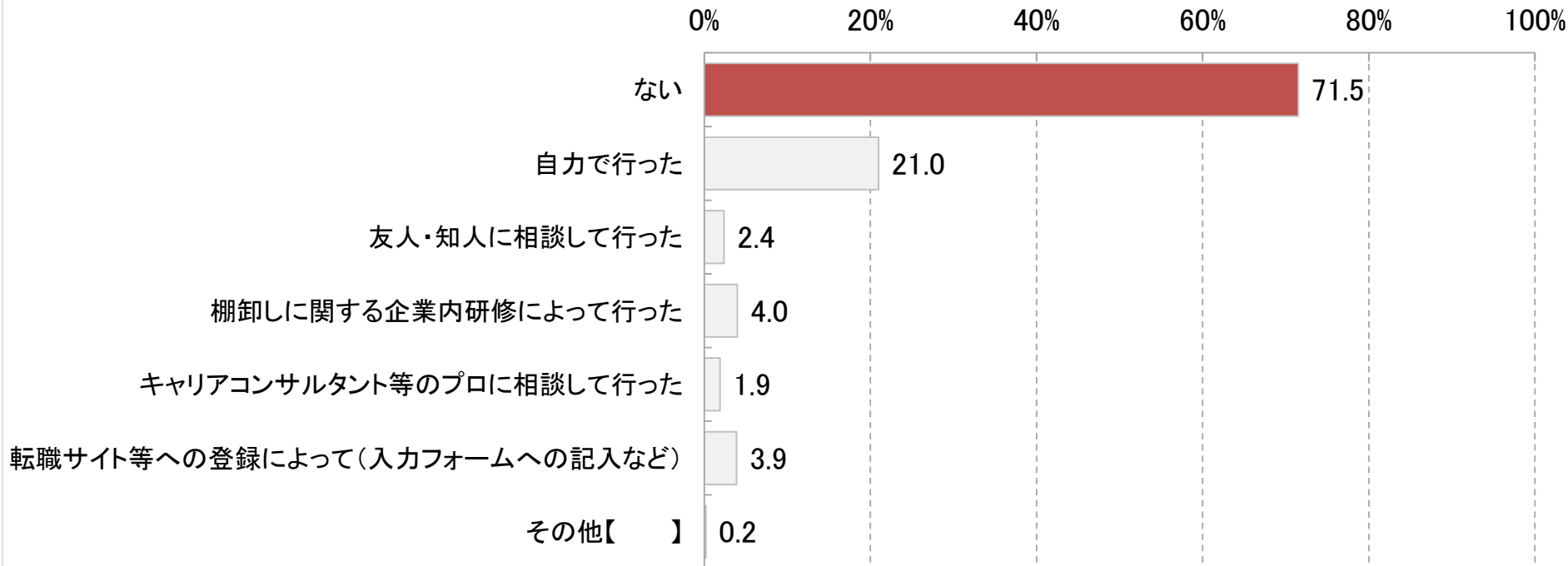
問. あなたは現在、社外活動をしていますか。 (赤：している、青：していない) (n=1307)



7割の働き手は、「キャリア・スキルの棚卸しをしたことがない」。

- 7割の働き手は、「自分のキャリアやスキルを棚卸しした経験がない」。残りの2割は自力で棚卸ししているが、研修等の機会に恵まれている割合は極端に少ない。

問. 現在、自分のキャリアやスキルについて、棚卸し（これまで携わってきた全ての仕事、身に付けた全てのスキルについて書き出し、整理すること）をしたことがありますか。
※棚卸しを行った方は、実施した手段を全てお選びください。（いくつでも）（n=1307）

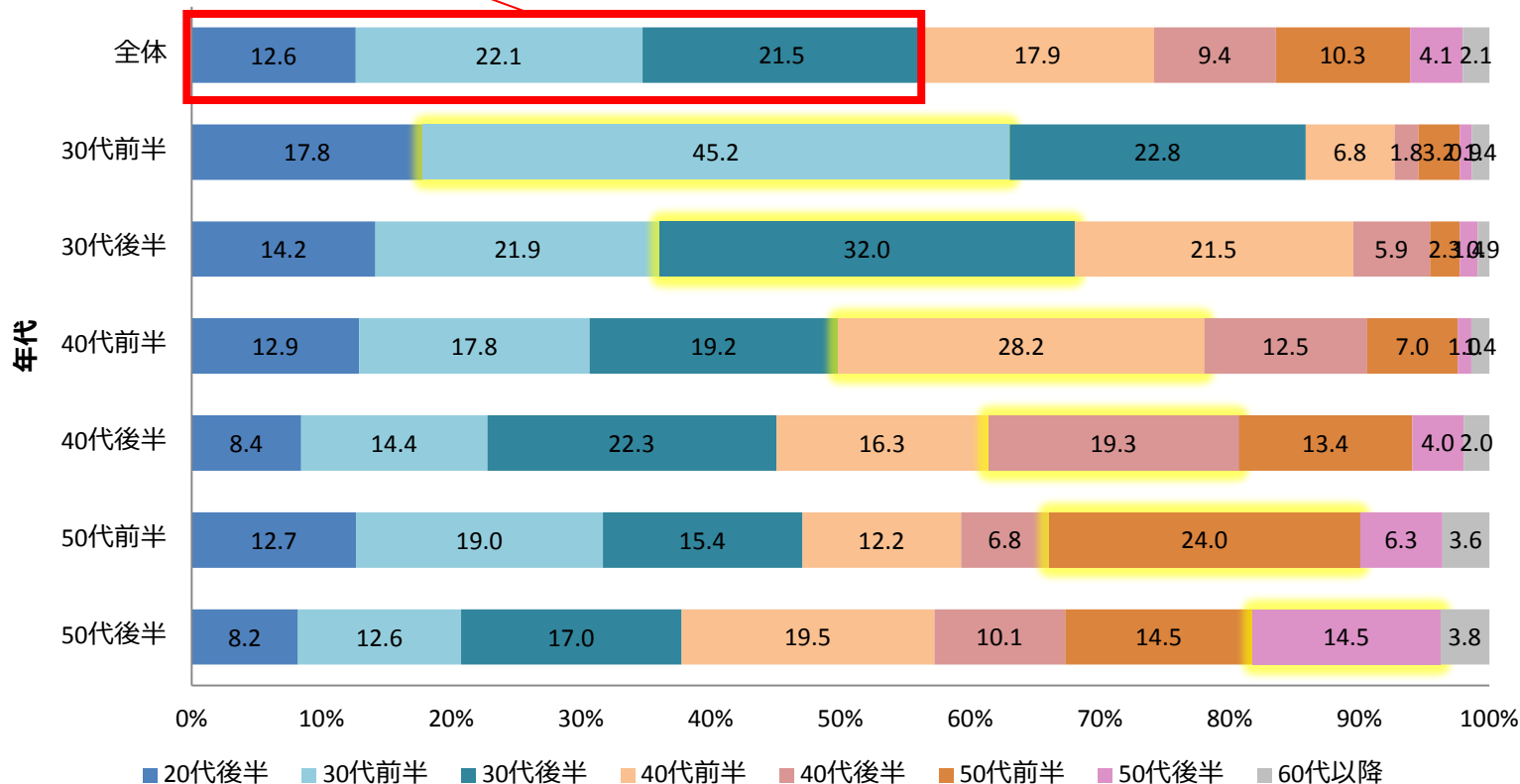


学び直し始める理想年齢は「30代以前」。

- 人生100年時代に学び直し始める理想年齢は、30代よりも前が半数以上。
- 40代以上は、自分の年代よりも「早く学び直したかった」割合が非常に高い。

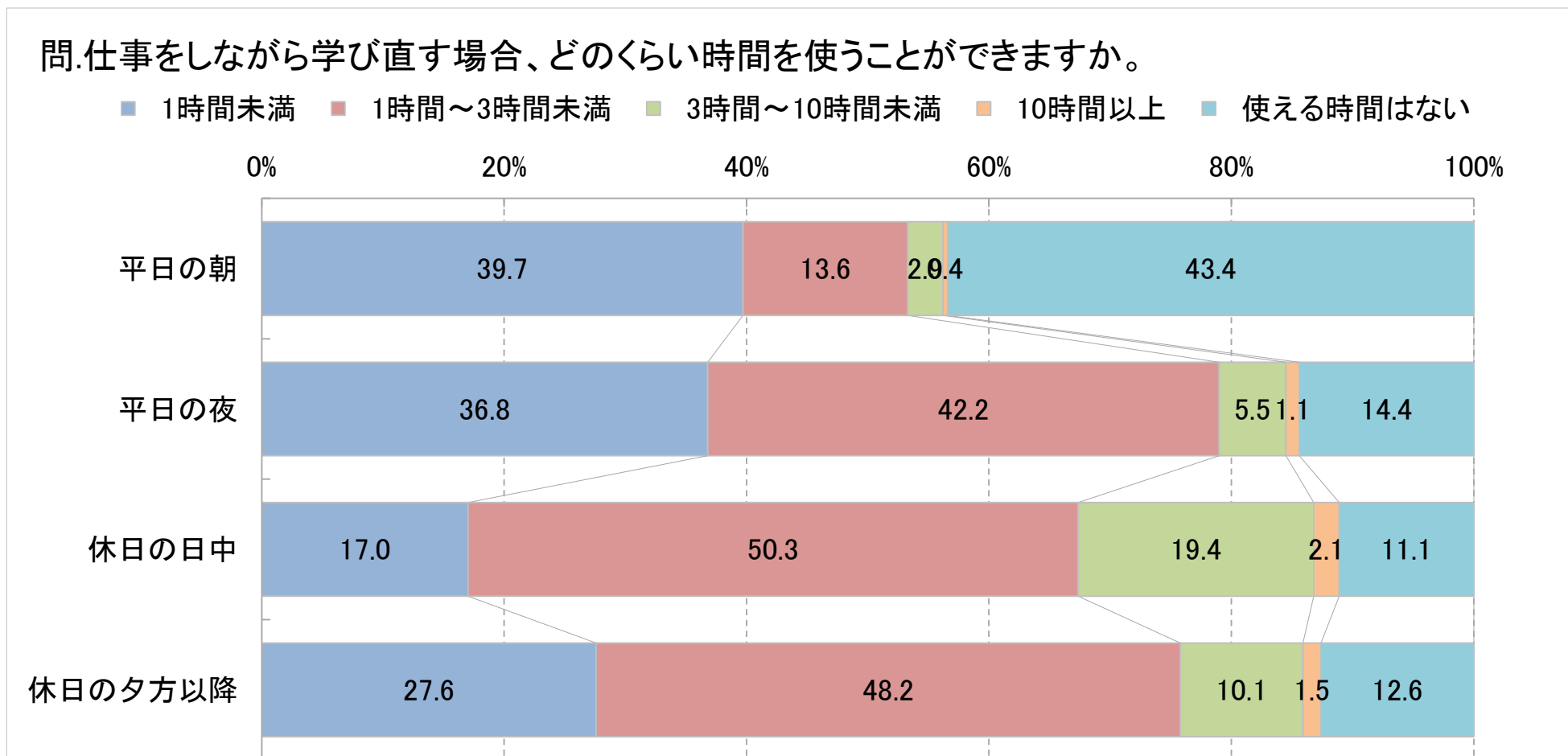
問. 人生100年時代の中で、生涯活躍するために、何歳くらいをスタート地点として次のキャリアを見据えた学び直しに取り組むことが望ましいですか。(n=1307)

全体：30代以前が56.2%



多くの働き手は、「1日1時間～3時間」なら学び直しに使える。

- 平日夜、休日日中・夜であれば、約半数は1時間～3時間未満を使うことができる。



アンケート結果より得られた示唆

- ① 30歳～59歳が考える「理想の学び直し開始年齢」は「30代より前」が半数以上。一方で、7割以上は「自分自身のキャリアやスキルを棚卸した経験」がない。
⇒働き手の大半はキャリアを見つめ直す機会に恵まれてこなかった一方で、早い段階で行動することが必要と自覚。
- ② 3分の2は特定分野のスペシャリストを志向。一方で、学び直したい内容は「趣味や生活に関する学び」が一番多く、「大学院進学等のための自己啓発休業」は最下位。
⇒スペシャリストという理想と、学びたい内容のギャップが存在。キャリアの棚卸しができていないことも原因である可能性。
- ③ 他方で、半数近くが兼業・副業や出向などに前向き。また、約半数の働き手は、平日夜、休日日中・夜であれば、1時間～3時間未満を学び直しに使うことができる。
⇒時間の使い方次第で、学び直しや兼業・副業、出向も可能となるか。